

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや2F

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや2F		
所在地	岩手県盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	平成30年11月27日	評価結果市町村受理日	平成31年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=0390100022-00&PrEfCd=03&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様がいつでも自由に行動ができる ・面会等において規制を設けず、自由でオープンな空間を提供している ・家族、医療との協力体制を敷き、最期の時まで一緒に生活できる ・立地条件が良く、近隣の住人にも恵まれ、事業所としても活動しやすい
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>都市開発地域の住宅エリアに位置し、周辺に総合病院、体育施設、ショッピングセンターなどの施設が集約された生活環境に恵まれた地域に立地している。事業所では、花壇の整備や廃品回収への協力など地域の役割を担っているほか、地域住民や家族等を招き、新たに設置された東屋を活用して夏祭りを開催するなど、地域との交流に力を入れている。また、グループホームの理念に基づき、利用者と職員が共同生活者として、利用者の目線に立ち、利用者に寄り添いながら食事、外出などの要望に対応すると共に、利用者の経験と知識を生かしたお手伝いや趣味活動を通じて、笑いのある楽しい生活を過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内や、ミーティング資料に掲示し、理念を念頭に置き支援している。	開所時に定めた理念を施設内に掲示しミーティングで確認するなど職員間で共有し、日々の生活の中で利用者に寄り添い、利用者の希望や来所時に聴きとった家族の要望等に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練への参加や、施設行事への参加の呼びかけ等、地域の方々との交流を深めている。 また散歩などで会った場合は挨拶するよう心掛けている。	家族や地域住民の参加を得て夏祭り、敬老会、忘年会などを実施しているほか、地域の花壇の整備や廃品回収への協力、中学生や高等支援学校生の受け入れなど、地域との交流に取り組んでいる。また、職員をリハビリ体操の指導者として、地域活動に派遣している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々も参加していた だき、認知症の方への理解、支援について話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、地域の方々から貴重な意見をいただける場となっている。	利用者への投薬ミスや体調不良者への対応、夏祭りへの地域住民への広報など、会議で話された具体的な意見や提言を運営に反映させている。敬老会、忘年会にも委員が参加し、利用者とは直接に交流している。	運営推進会議の委員の出席について、関係機関との調整を図り、多くの委員の参加による会議の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退所の相談など情報交換を行い、アドバイスをいただいたりしている。 運営推進会議への参加あればなお良いと感じている。	法改正の説明、研修会に職員が出席しているほか、要介護認定申請や生活保護事務への対応の際に、市の担当者から助言、指導を得ている。市主催の防災の日の訓練には、職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受講し、研修内容をミーティング等で共有しながらケアに取り組んでいる。また身体拘束に関する会議を定期的 に開催することで意識を高めている。	身体拘束に関する委員会を設置し、ミーティングやカンファレンスを通じて、職員間で意識や対応策を共有し、日々の介護に反映させている。身体拘束の事例は無く、数名の利用者に転倒防止、夜間トイレ対応のために、センサーによる離床確認を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設での虐待の情報等をミーティングで話し合う機会を持ち、またスタッフが研修へ参加することで意識を高め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者があるので、その人の下で学ばせてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に伴い、具体的な金額や例を挙げ、しっかりした説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月ごとに写真入りの広報を送っている。家族が訪問した際には、話しやすい雰囲気作りをし、面会の少ない家族にはアンケートを実施し、意見要望を伺っている。	来所する家族から意見等を伺っているほか、2か月ごとに発行の機関紙「和・笑・輪」通信で利用者の状況を家族に報告すると共に、特に変化のある利用者の家族には、随時連絡をとり要望等を聴いている。利用者の食事、買い物の要望にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング等で職員にも意見を出す場がある。意見は本部の福祉部会や理事部に提案する場合もある。	ミーティングの際の提案や日常業務中の申し出などにより、イベントの際の家族用イスの購入、生活状況のスライドの作成、文化祭への作品の展示などを行っている。職員の事情を踏まえた勤務割を設定し、資格取得への支援も行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境を良くするために、勉強しているところである(具体的に、仕事の分割をすることによる、仕事の専門性の向上等)。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフが毎月必ず何かしらの研修に参加しており、報告書等で全員に周知している。また研修に参加したスタッフは現場での実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加している。夏に大船渡の研修に参加、11月にはグループホーム協会の実践報告会にも参加予定である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と接する時間を多くとり、不安に思っていることや、希望していることを受け止め、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会の際に、利用者の様子をお伝えし、情報交換を行っている。家族の願いや思いを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族への聞き取りを行い、当施設が希望に対して、どう支援行うか、検討しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの得意な事、興味を持っている事を理解し、日々の生活で一緒に行えることを見つけだし、一緒に過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の昼食時、家族に食事介助してもらうなど、積極的にかかわってもらえるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院への通院の継続、ご友人等家族以外の方の自由な面会、外出の支援等を行っている。	時折、知人や友人、親戚のお菓子持参の訪問がある。友人の趣味の会(詩吟、木の絵)が来訪し、利用者も一緒に楽しんでいる。お盆や正月に家族と外出(外食)、外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者の中に入り、会話等で利用者同士の関係の構築の支援を行っている。またレクリエーションや作品作りで、皆が関わりながら孤立しないように楽しく参加できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族から、オムツの支援を受けたり、気軽に施設を訪れて会話できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1対1の時間をとり、思いや願いを聞き、カンファレンス時にスタッフ間で話し合っている。ケアプラン作成時にも本人からの要望に応えるよう努めている。	記録簿(チャート)や申し送りノートに利用者の意向や要望等を記録し、職員間で共有している。利用者に寄り添い、目と目を合わせて話しかけ、意向を伺い対応しているほか、利用者の知識や経験をお手伝いや趣味の活動に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要な情報を以前入所していた施設や、家族、サマリーなどから集め、どのような環境で育ったのか把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を観察、記録し、それらの情報をもとにカンファレンス等で本人の現状について話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の想いや希望、家族との情報交換、訪問や医師からのアドバイスをもち、カンファレンスで話し合い、出来上がったプランを家族に確認していただいている。	3か月ごとに計画を見直している。計画作成担当者がモニタリングを行い、職員会議でのカンファレンスを経て家族への聴き取り等を行い計画を作成している。医師の指示や看護師の助言なども反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートという個別記録用紙にて、日々の発言や様子などを記録し、スタッフ間で情報共有を行い、カンファレンス等での話し合いに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や、理容・美容を取り入れる事に対応を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供さんさ、同じ地区で活動する絵本の読み聞かせ、散歩中の公園の利用など、地域資源を生かした楽しみを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者によって通院による受診、往診とニーズに合った受診の支援を行っており、本人、家族の意向に沿った医療を受けられるよう支援している。また医療との情報交換も積極的に行っている。	訪問診療は10名で、他は入居前のかかりつけ医を家族同伴で受診している。家族の要請により職員が同行する場合もある。精神科、皮膚科などの受診も同様である。歯科の訪問診療は4名である。通院に介護タクシーを利用する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態を把握し、異変があった場合は、提携している訪問看護へ連絡し、相談やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の相談員や看護師と常に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医療関係者と話し合いを重ね、方針を決めたのち、主治医、訪看の十分な協力を得たうえで終末期に臨んでいる。	医療との連携が図られ、医師による勉強会を通じ職員の知識や体制が整い、家族の意向に沿って本年は4名の看取り介護を行なっている。重度化した場合は、改めて家族の意向を確認し、他機関への移送又は事業所での看取り介護を行なうことになる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や、ミーティング等で急変時の初期対応や連絡先の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急対応時の連絡網を利用し、職員間の対応ができるようにしている。また、定期的に避難訓練を行っており、地域の避難訓練に利用者も参加し、顔を覚えてもらうなどの協力体制を築いている。	避難訓練は年2回実施する。年明けの2、3月にAEDの訓練を予定している。地域住民に訓練への参加をお願いしているが、現状、支援は得られていないが、地域の関係者3名に非常通報を自動通報される仕組みが出来ている。3日分の食料を備蓄し、ガスコンロ、ろうそくを確保し、ハザードマップを常備している。	地域の協力隊による訓練へ支援と運営推進会議委員の訓練参加について、関係者との調整、検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を理解、人格を尊重し、その方にあった対応をしている。また同じ目線に立ち、自尊心やプライバシーを傷つけないよう心掛けている。	個人情報や写真はファイルで事務室に保管し、関係資料も手書きで作成し保存している。広報誌(家族、地区回覧用)への写真掲載は、予め家族の同意を得ている。標準語で会話し、親しみの中にも礼儀を忘れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望を話せる利用者には、本人の意思決定を大切にしており、意思表示の難しい方には時間をかけて、表情や反応から汲み取るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事においても強制する事は無く、利用者のその時の希望や思いを大切に、安心して過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性、好みを大切にしながら、訪問理・美容の利用や、季節感のある服装、衣類の乱れなどを確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、片付けなど、できることを一緒にに行い、メニューの作成には希望を取り入れるなど、食事が楽しくなるように支援している。	メニューは1週間ごとに職員が作成しているが、食材の購入に職員と出掛けた利用者の意向で急遽変更する場合もある。調理は職員が行うが週末にはボランティアの手伝いもある。誕生日や行事、外出の際には、利用者の希望に沿って寿司、ステーキ、ラーメンなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者に添った食事形態(キザミなど)で食事で提供し、肉や魚、野菜などをバランス良く使った食事を心掛けている。また食事以外に2回、定時に水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援している。歯科検診や訪問歯科も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄ができるよう、支援・誘導を行っている。	個別の排泄パターンにより、誘導、案内している。夜間のポータブル利用者は2名で起床確認のセンサーを2名が使用している。布パンツ利用者は6名で、他はリハビリパンツを利用し、パットの併用は3名、オムツは1名である。介護用品の負担を少なくするため、おむつ介助の研修を行い、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時にヨーグルトの提供や水分摂取、食事メニューの工夫や運動を行い、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は若干の制限があるが、それ以外は利用者それぞれの希望を受け、スタッフと1対1の会話を大切にしながら、気持ちよく入浴していただけるよう努力している。	週3回午後入浴としているが、毎日の入浴も可能である。菖蒲湯、柚子湯を提供している。水虫の方は足湯の後、薬を塗布している。入浴を嫌がる方が1名いるが、週1回は入浴している。利用者と職員が本音で話し、一緒に歌を歌って親しみを深めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその時の希望に応じて、好きな時間に安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、薬の効果や副作用の確認、不明な点は医療に連絡していただく等の協力を得ている。スタッフも服薬内容をファイルしたもので確認を怠らない様心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、テーブルや食器拭きなど、利用者それぞれの活動の中で自分の役割をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やベランダでの日向ぼっこなど、気軽に外へ出る事が出来るよう支援を行っている。ドライブ等の遠出の機会も設けており、今後も希望を聞きながら企画していくよう努力する。	天気の良い日は、近くを散歩するほか、ベランダ、ウッドデッキで日向ぼっこをしている。食材の買出し同行や2、3名での近隣ドライブのほか、行事計画に沿って八幡平、小岩井などのほか、紫波のイチゴ狩り、ひまわり見学にドライブしている。家族との外出・外泊、友人の趣味の会に出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難であるが、財布と現金があることで安心する利用者もあり、所持してもらえるよう支援した。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば利用者が電話がかけれる支援を行っており、また家族からも要望があれば取り次ぐよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音が出るような時には、先に利用者へ一言断りをいれたり、温度や光源を適度な状態を維持するよう、エアコンや明かりの調整を都度行っている。また季節を感じられるような装飾をしたり、金魚などの生き物を配置したりと工夫を行っている。	大きな引き戸と天窓からの明るい光の中、松の集製材をふんだんに利用した広々としたロビーである。食事用テーブル、ソファが配置され、テレビや趣味活動、新聞の閲覧、読書など、思い思いの場所で、くつろいでいる。金魚の飼育や鉢物、文化祭展示用の手作り作品、季節の飾りで彩られている。大型の蓄熱機とエアコンで温度、空調が管理され、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて利用者が好きな場所で休んだり、テレビを見てくつろげるような工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に馴染のタンスや写真など、使い慣れた物を居室に置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	ベッド、クローゼット、テレビ端子が設置され、テレビ、衣装ケース、タンス、イス、家族写真、化粧品、時計、手づくり作品、位牌など、それぞれの意向に沿って持ち込まれている。蓄熱機で温度が管理され、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をかけ、手すりや階段を利用して自立した行動を促している。居室の場所や出入り口が分からない等、行動に迷いがある場合は、職員が誘導し安全に生活が送れるよう支援している。		